

# 網羅についてのノート—事実と価値の本質と全体のための—

高原 利生\* (無所属)

## A Note on Enumeration

### - For Essence and Totality of Facts and Values -

TAKAHARA Toshio

#### 1 はじめに

事実と生きることを網羅し事実と価値の全体を求めたい。感性、感情は重要だが本稿には含まない。網羅はラテン語では“enumeratio”で、デカルト「精神指導の規則」原著1701.の岩波文庫野田訳1950では「枚挙」である。

#### 2 思考の基本概念の網羅 [FIT2004-05][TS2005-08]

事実から扱う情報であるオブジェクトを引き出すのに、**粒度**、**網羅**という基本概念の網羅が必要である。

事実からある粒度(抽象化具体化の程度)で知覚と思考によって切り取り、扱う情報が**オブジェクト**である。単にオブジェクトを特定するだけなら、(オブジェクトと)粒度だけでよい。しかし、適正な粒度は、(直接には当のオブジェクトを含む上位のオブジェクト内で、さらにできれば全体として)網羅された中から選ばれるべきで(そうしないと必要なオブジェクトを取り逃がす)、同時に網羅はある粒度に拠って行われる。そのため、**オブジェクト**、**粒度**、**網羅**の三つは全体の中からオブジェクトの位置を規定するために必要な最少の基本概念である。

**粒度**とは、具体的にはオブジェクトの抽象化、具体化の程度である。その要素は、オブジェクトの影響の及ぶ空間的範囲、時間的範囲と、無数の属性の中から着目し選んだある抽象度の属性である。

#### 3 生きることの網羅 [FIT2013,2016]

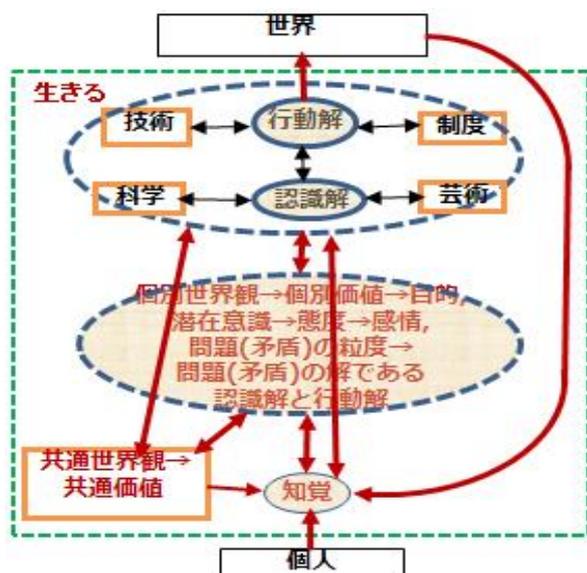


図1 人類の生きる構造 (FIT2016 を改良)

知覚と哲学(世界観と方法)が、潜在意識、態度、感情を作り、さらにこれらが**生き方**を作る。

人は、知覚と生き方によって、世界の事実を認識し現実に関与する。人が**今**、**生きる**ことを、次の相互作用の系列で近似する。生きることは、この繰り返しである。

**今**、**生きる**こと = (知覚 ⇔ (世界観 → 価値観) ⇔ (潜在意識、態度、感情) ⇔ (論理、方法、それによる認識、行動の決定象) ⇔ 文化・文明の支援による認識と行動)) ⇔ 事実

**生き方** = ((世界観 → 価値観) ⇔ (潜在意識、態度、感情) ⇔ 論理(学)、方法) ⇔ 事実

#### 4 網羅

基本概念の網羅は述べた。後は、事実(対象)の網羅、対象についての見方の網羅(世界観)、対象を扱う方法(論理)の網羅(論理学)、生き方の網羅、理想の網羅で網羅される。順に述べる。

#### 5 事実 [FIT2004,TS2005] の網羅

対象化の前提で事実を、客観的世界と人の観念に今ある存在、関係(運動)の全体ととらえる。存在、関係(運動)の全体が構造でありこの構造が外部に対して発する意味が機能である。つまり、事実を存在と関係(運動)の全体ととらえることは、機能と構造としてとらえることである。世界の事実は機能の集合である。客観世界においても擬人的に機能と言う語を使う。

##### 5.1 存在

存在を一時的に固定的にとらえられる実在の物理的なまたは生物的等のものとして固定的観念とする。関係、運動がそれを変更し新しい実在のものや新しい観念にする。

ある木の部品の集まった状態が椅子Aの状態であることが持続する時間は、数十年かもしれない。観念のある状態Bが持続する時間は、数マイクロ秒かもしれない。このAもBも、ある関係によって別の状態に変化するまでの持続する時間の間、存在と扱い運動、関係(Aの場合は工作、Bの場合は思考や議論)と対等に扱う。この両方を表すいい用語がないので存在という言葉を使う。

##### 5.2 存在と運動(関係)

いくつかの場合がある。

1. 存在と運動、関係が独立している場合がある。
2. 機能的に、構造の要素の一つ、存在=ものか固定観念が、別の要素、関係(運動)と相互転換する場合がある。正確には「存在、関係(運動)」のセットが、別の「存在、関係(運動)」のセットと相互転換可能である。

例：バケツ10杯分の水を川から汲み上げるため、10杯の容量の汲み上げ装置を1回使用しても、1杯用の汲み上げ装置の10回使用でも機能は同等である。

$s_1 \times t_1 = s_2 \times t_2$  を、質量  $s_1$  のものの  $t_1$  回の運動が、質量  $s_2$  のものの  $t_2$  回の運動と機能が等しいことを表す表現とする。この例では、 $10 \times 1 = 1 \times 10$  である。

この例では、物質的な存在、運動（関係）のセットと、他の存在と運動のセットが等価であった。観念世界での存在と運動のセットと、他の存在と運動のセットも等価である。観念の中で「大きなものの少ない利用と小さなものの多い利用が転化可能である」と抽象化をすることも、さらに思考を進めることもできる。

3. 存在と運動(エネルギー)が等しい場合がある。これは  $E=mc^2$  という定量表現の前提、一般化になる。

4. 存在であり運動である（粒子と波動運動が区別できない）場合がある。

1、2、3、4の歴史的空間的關係やインパルス関数の意味が検討課題である。

### 5.3 観念の中の事実

客観の事実は問題が少ない。客観の事実は、言わば「宇宙の神」の視点によって「宇宙の神」が認識できる全てである。

問題は個人によって異なる観念に今「ある」主観的内容の扱いである。現に人の観念に今「ある」ものには、各個人の脳内の過去現在未来についての像を含む。「変化」「変更」の無数の可能性がある。この網羅される変化、変更の可能性も、観念に生ずる限り事実である。

主観的内容の事実の例：ある人の脳内に、昔、一瞬、浮かんでいた幻想、妄想や未来像。ある人に把握された法則、価値。

残る問題は、この事実の粒度、つまり誰のいつのどういう観念迄含むかということである。私にとっての事実、大多数にとっての事実、世界の誰かが把握している事実がある。これらを使い分ける。

これはおそらく新実在論の言うところに近い。

## 6 事実についての網羅

### 6.1 対象を扱う方法(論理学)の網羅 [TKHR] [FIT2019]

扱う対象を選択する方法、認識、操作の方法が論理で、その体系が論理学である。形式論理学と文法を前提とし、この論理学はそれらの間の位置にある。

提案している論理学は、矛盾モデルと根源的網羅思考からなり、これらはシステムとその運用の係にある。 [FIT2014] [FIT2015] [THPJ 2015/01,02]

根源的網羅思考の論理は、扱う単位の特定のための抽象化、具体化、つまり粒度特定という縦の論理と、その前提で行う認識、変更のための推論という横の論理、さらにこれらに関わる全ての思考で網羅される。推論は、形式論理の演繹、帰納と仮説設定からなる。従来の「原因—結果」の連鎖による演繹、厳密な帰納も仮説設定に帰せられる。

弁証法論理によれば、歴史と論理は大きくは一致する。論理と世界観は大きくは一致する。 [TKHR]

### 6.2 対象についての見方(世界観)の網羅 [TKHR]

対象の歴史と現状についての見方が世界観で、これが価値観を作る。

### 6.3 生き方の網羅 [TKHR]

論理学と世界観と潜在意識、態度、感情からなる生き方が、文化・文明を介して事実働きかけ価値を実現する。文化・文明は技術、制度、科学、芸術で網羅されている。

理想を求め、理想の実現までは、より大きな価値と真理の全体を網羅的に求め続ける態度が必要である。 [TKHR]

### 6.4 理想の網羅 [TKHR]

以上は、対象化された世界の話で、より良い機能を実現する構造が実現されていく。しかしこれでは人にとっての対象は良くなるが対象の価値は高まらない。このために対象化と非対象化でない反対概念である一体化を考え、対象化と一体化の統一を考えた。

対象化は、対象を自分と切り離れた対象として（さらに自分も相対化し、対象として）操作する態度、意志、行動である。一体化は、自分と対象を一体とし双方の価値を高める態度と行動である。

対象化と一体化はお互いに反対物であり入れ子になっている理想の網羅である。

## 7 結論と課題

「網羅」から現状と課題を網羅的に述べた。

オブジェクト、粒度、網羅の基本概念の要素は、相互作用があり矛盾を構成している。事実の要素である存在と運動（関係）は複雑な相互作用があるらしい。理想を構成する対象化と一体化は単なる相互作用、矛盾であるだけでなく双方向入れ子になっている。

相互作用の普通の矛盾と、双方向の入れ子が構成する一体型矛盾 [TS2011] [FIT2016] の関係検討が課題である。

### 謝辞

大阪学院大学名誉教授中川徹博士からの十数年に渡るご指導ご支援に厚く御礼を申し上げます。

### 参考文献

[TKHR] 高原利生, 「未完成の哲学ノート(2019年2月)ー矛盾モデル, 根源的網羅思考と世界観、生き方とポスト資本主義」, MyISBN. デザインエッグ株式会社. 初版 2019.3. 四版 2019.9.

[FIT2004] 高原: “オブジェクト再考”, FIT2004, K\_053, 2004.09.

[TS2005] 高原: “オブジェクトの再把握とそのTRIZ, USIT, ASIT への適用” 第一回 TRIZ シンポジウム, 2005.09.

[FIT2013] 高原, “世界構造の中の方法と粒度についてのノート”, FIT2013, 2013.

[CGK2018] 高原, “個人の幸せと世界の価値実現、その両立の成立時期”, 2018年電気・情報関連学会中国支部連合大会, R18-27-15, 2018.

[FIT2019] 高原利生, “弁証法論理学の生成構造” FIT2019, 2019.

他の引用資料名は TRIZ ホームページ, 中川徹 <http://www.ogjc.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/indexGen-Paper.html#paper0> 内の学会等発表・研究ノート・技術ノート 高原利生論文集「差異解消の理論」参照。